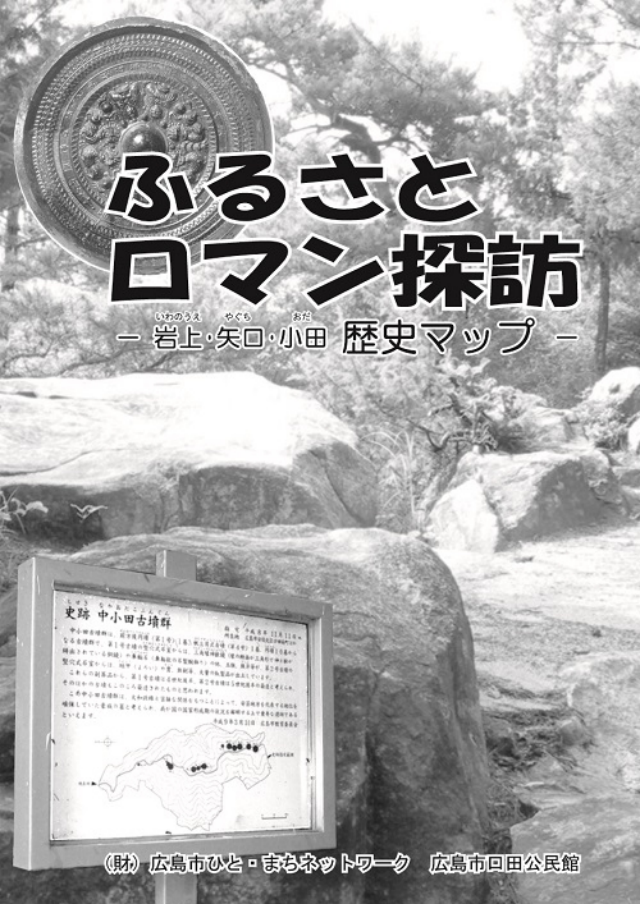




ふるさと ロマン探訪

— 岩上・矢口・小田 歴史マップ —

(財) 広島市ひと・まちネットワーク 広島市回田公民館

はじめに

このマップは、地域の歴史に関心をもつ市民が、地域探訪などをとおして資料を収集し、1年あまりかけて作成したものです。
昭和40年代からすすめられた開発により、多くの遺跡や古墳が出土している「ロマンの香り漂う」この地域を、より多くの人に探訪してもらえればと願っています。
みなさんもこのマップを手に、まちの歴史にふれてみませんか。

【掲載内容】

- 表面：安佐北区口田地区（小田、矢口）及び落合地区の一部（岩上）について、主な遺跡や古墳などを中心に散策コースを紹介しています。
- 裏面：昭和初期に詠まれた口田村十郎の詩歌をもとに、当時の景勝地や消滅した建物・場所などを紹介しています。

散策モデルコース

岩上コース

移動時間：70分

（中継バス停あり）

① 岩上郵便局スタート

② 土井迫黄幡神社

③ 岩上観音堂

④ 岩上祇園社

⑤ 岩上開寿堂

⑥ 岩上郵便局ゴール

※末光遺跡群は、団地造成により消滅しているため、散策コースから外しています。

※移動時間は、大人の平均的な歩行時間で設定しています。

矢口コース

移動時間：60分

① 口田公民館スタート

② 西願寺山墳墓群

③ 月野瀬神社

④ 道川長七が丘古墳

⑤ 草谷の山崎薬師堂

⑥ 新宮神社

⑦ 長谷山教蓮寺

⑧ 安芸矢口駅ゴール

※岩上集会所は、団地造成により消滅しているため、散策コースから外しています。

小田コース

移動時間：120分

① 口田小学校スタート

② 弘住神社

③ 弘住遺跡

④ 大蔵神社

⑤ 小田定用水

⑥ 多賀山山麓寺

⑦ 平野神社・古墳

⑧ 龍水山松笠観音寺

⑨ 岩海の地蔵堂

⑩ 小田の土手跡・渡し場の石橋

⑪ 龍水山松笠観音寺

⑫ 小田の土手跡・渡し場の石橋

⑬ 龍水山松笠観音寺

⑭ 小田の土手跡・渡し場の石橋

⑮ 龍水山松笠観音寺

⑯ 小田の土手跡・渡し場の石橋

⑰ 龍水山松笠観音寺

⑱ 小田の土手跡・渡し場の石橋

⑲ 龍水山松笠観音寺

⑳ 小田の土手跡・渡し場の石橋

㉑ 龍水山松笠観音寺

㉒ 小田の土手跡・渡し場の石橋

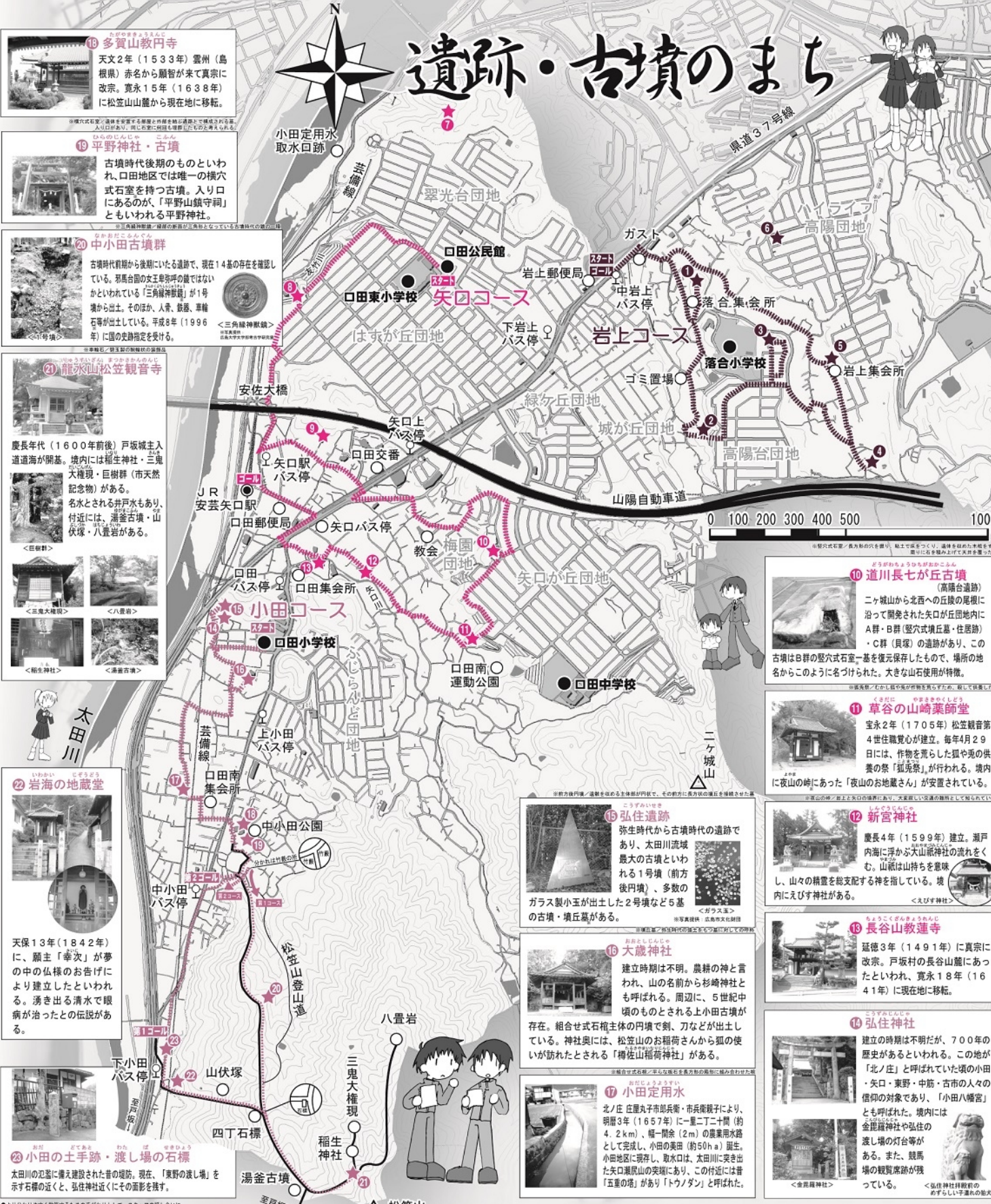
㉓ 龍水山松笠観音寺

㉔ 小田の土手跡・渡し場の石橋

㉕ 龍水山松笠観音寺

※移動時間は、大人の平均的な歩行時間で設定しています。

※小田古墳群、龍水山松笠観音寺を外せば短時間で散策できます。



1 岩上八幡神社

文明年代（1469年～1486年）の建立といわれるが、詳細は不明。神社の北側の木立の中に貝塚（岩の上貝塚）がある。

2 土井迫黄幡神社

狩留家湯坂の荘園領主大幡公卿により天平12年（740年）に建立し、延久元年（1069年）に岩の上池田に移祀したといわれる。

3 岩上観音堂

廃寺跡ともいわれ、観音菩薩を祀り明治35年（1902年）に再建。昭和59年（1984年）に改築。周辺住宅団地の造成により現在地に移転修復。

4 岩上祇園社

京都・八坂神社の流れをくみ、素戔鳴命を祀り、疫病からの回避を願い「お祇園さん」と呼ばれ、地域の人々の信仰の対象となっている。

5 岩上開寿堂

昔は土井迫山の「元成寺」と呼ばれた開成の地にあり、浄土真宗の教団であった。平成9年（1997年）に建て替えられ、現在は集会所として利用されている。

6 末光遺跡群

「ハイライフ高陽団地」の開発で発掘。弥生時代後期の5群からなる遺跡群とみられ、竪穴住居跡・土器・瓦葺などが見つかっている。団地の西端には、岩上の山城の跡が存在していたことが確認されている。

7 梨ヶ谷遺跡

弥生時代後期とみられる住居跡と集団墓とで構成される。広島市内でも比較的大規模な集落跡。河原石を積んでつくった石室を持つ墓や土器・石鏡・土製玉などのほか土器箱墓から人骨も出土している。

8 西願寺山墳墓群

弥生時代後期と考えられる5群から形成。うち2群が昭和49年（1974年）に県史跡指定を受け、現地に復元保存。隣接する西願寺山北遺跡（現在は消滅している）とも石室に多数の河原石使用が特徴。

9 月野瀬神社

1000年以上の歴史がある、口田地区で最も古い神社。別名「月野瀬加茂大神」といわれこの地が大明日と呼ばれる。祭神は龍神・雷神ともいわれ、この神の怒りに触れると大雨・雷電を被るとの伝説がある。神社周辺には、弥生時代後期の遺跡が数多く見つかっている。

●より詳しく学びたい方は、本マップを参考に、スタッフの話し合いにより遺跡群も確認していただきたいと思います。

ふるさと紹介

東に「ニヶ城山（標高483.2m）」と「松笠山（374.6m）」を望み、西に清流太田川が流れ、南北に長くつらなる自然の恵みにはぐまれた「ふるさと」は、近年大規模な住宅団地の開発と道路網などの整備により、広島市のベッドタウンとして発展を続けています。

太古には、この地域は海であったと考えられており、いくつかの貝塚が存在することでもそのことがうかがい知ることができます。太田川沿いの小高い丘には、弥生時代から古墳時代にかけての墓らしきものを物語る遺跡・古墳が多く出土しています。その中で、松笠山の麓の「小中田古墳群」の第1号墳からは、邪馬台国の卑弥呼の鏡ではないかと言われる「三角縁神獣鏡」が出土し、当時の大和政権と深いかわりがある有力者の墓であると考えられ、平成8年（1996年）に国の史跡指定を受けています。また、昭和49年（1974年）に広島県の史跡指定を受けた「西蔵寺山墳墓群」など、この地で発掘される遺跡の石室には多数の河原石が使用され、この地方独特の文化が形成されていたことがうかがえます。

江戸時代の初めの頃の洪水で太田川の流れが変わり、現在のような形となりましたが『馬が小便ばりや小田の土手は切れる、切れてなるまい胡麻の種』とうたわれるほど太田川が氾濫を起こすたびに、土手が切れて大きな被害を被ってきた歴史を推察できます。

明治22年（1889年）の市制・町村制施行により、矢口村と小田村が合併して口田村が誕生しました。口田の名は、矢口村の「口」と小田村の「田」をあわせて命名したものです。また、明治28年（1895年）には深川村から独立して岩上が所属する落合村が誕生しました。

昭和20年（1945年）8月6日、広島市に原子爆弾が投下され、一瞬にして20万人の尊い命が奪われ市域が全滅しましたが、爆心地から10kmのこの地も、爆風により屋根瓦が飛び、窓ガラスが壊れるなどの大きな被害にまいりました。当時の口田国民学校（現在の口田小学校）と落合国民学校（現在の落合小学校）は、全身やけどを負うなどして避難してくる人々の臨時の収容所となりました。

＜伝説＞

わしは言わんが、われ言うな （夜山のお地藏さん）

昔、岩の上から矢口へ越える街道の時に、高さ2メートルばかりの地藏堂があった。この峰は、うっそうと茂る松林に囲まれる寂しい山道で、童貞氏の残党で十郎太という男が住み着き、追いはぎをやっていた。

ある晩、一人のおじいさんが米の入った袋を背負ってこの峠にさしかかったときのこと。地藏堂の前まで来ると、待ち構えていた十郎太は、地藏堂の陰から飛び出して切り殺し、金品を取り上げてしまった。そして、ひよい見上げると地藏様と目が合った。「今したことを見とつたろうが、誰にも言うちゃいけない」。十郎太は地藏様に向かって思わず口走った。すると、「わしは言わんが、われ言うな」と地藏様の声。

それから一年後、矢口の方に出かけた十郎太は一人のおじいさんと道連れになった。二人は道々、世間話をしながら歩いていたが、地藏堂の前に来たとき、十郎太はふとそこに立ち止まった。一年前のことを思い出し、なぜかそれをやべりたくてしかたがなくなったのである。「去年の今ごろ、じいさんをばっさり切り殺して金や米を取ってしまつたんじゃが・・・」。十郎太は自分の秘密を何もかもべらべらとしゃべってしまった。

そのおじいさんは、一人になると腹の底から恐ろしさが込み上げ、ひざ頭がガクガク震えるのをどうすることもできなかった。そして、翌朝、代官所へ駆けつけて、タペのことをありのままに訴えた。

役人が十郎太を縛でくくり、地藏堂の前を通るとき「十郎太、わしは言わんがわれ言うな。歌も過ぎれば身の破滅」と地藏様の声がはつきりと聞こえたという。

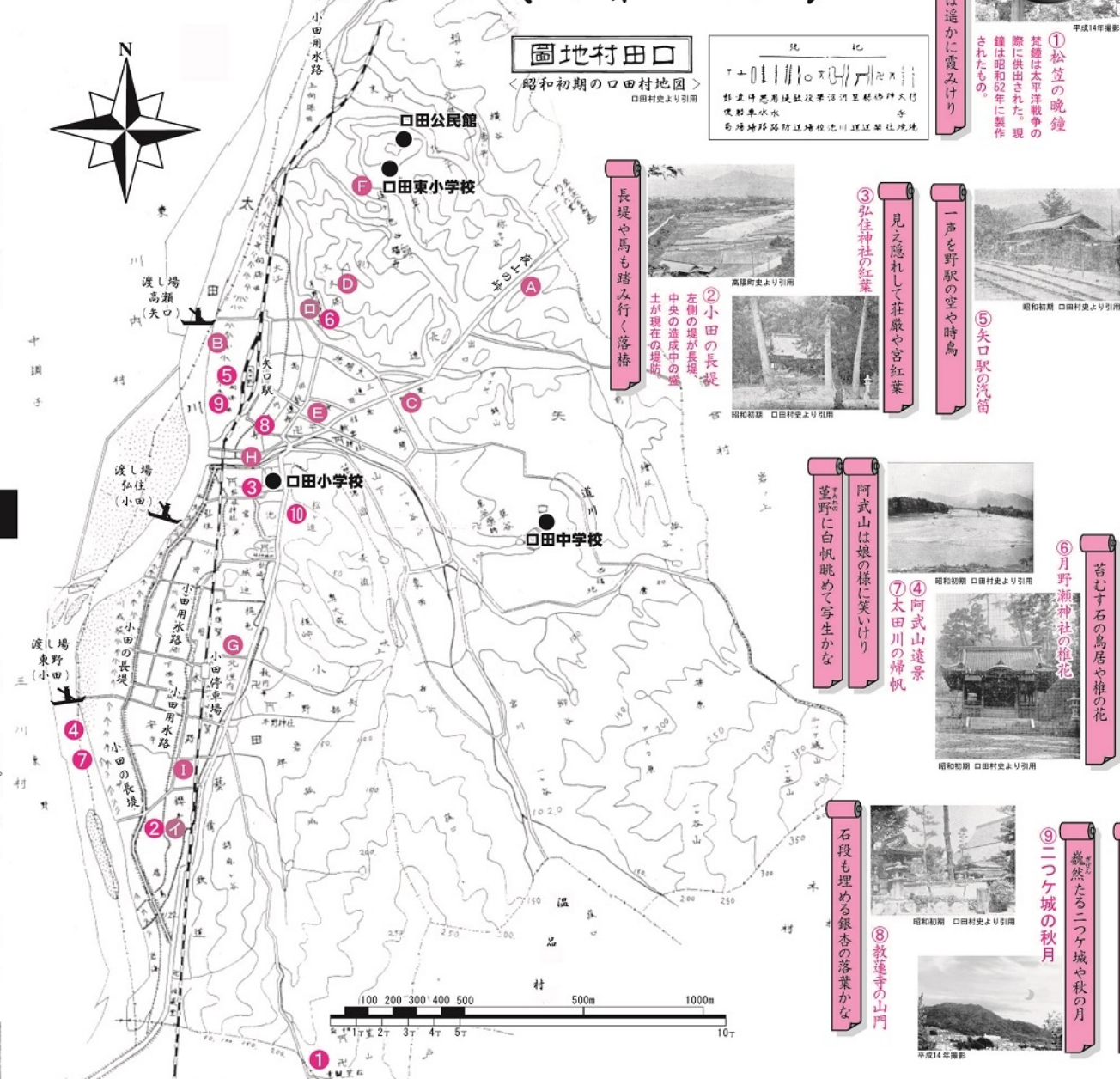
この伝説は、戦国時代からこの地域に伝わるものです。

地域の古老によれば、『夜山の峠はたいへん寂しいところ、山越えをする旅人が「追いはぎ」におそれこれを見ていたお地藏さんがその「追いはぎ」をしかつたところ、こつた「追いはぎ」がお地藏さんを強かつたいたため、首がとれた』との言い伝えもあります。このお地藏さん、今は矢口にある草苔の山崎楽師堂の境内に他の5体の地藏さんと一緒に並んで立っており首をセメントで修復してあるのが「夜山のお地藏さん」といわれています。

発行年月日／平成15年（2003年）1月
発行所／（財）広島市ひと・まちネットワーク 広島市口田公民館
〒739-1734 広島市安佐北区口田四丁目9番19号
TEL・FAX（082）842-7744
kuchita-k@hitomachi.city.hiroshima.jp
編集スタッフ／今中 康一・岡野 武夫・木戸 敬明・伊達 工・
中田 知行・西村 晴夫・郎慶 忠幸・米澤 松夫（五十音順）
イラスト／口田中学校美術部
参考文献／口田村史、高瀬町史、安芸・備後の民話、ふるさと口田111
資料協力／（財）広島市文化財団

※限られた時間の中で精一杯取り組み、このようなマップが完成しました。スタッフ全員初めての試みであり、内容については十分とは言えませんが、少しでも地域の歴史に関心を持っていただければ幸いです。

昭和初期の 口田村十勝（勝景・勝地）



口田村地図

＜昭和初期の口田村地図＞
口田村史より引用

松笠の鐘は遠かに霞みけり



平成14年撮影
①松笠の晩鐘
其鐘は太平洋戦争の際に供出された。現鐘は昭和52年に製作されたもの

一声を野駅の空や時鳥



昭和初期 口田村史より引用
⑤矢口駅の汽笛

見え隠れして莊嚴や宮紅葉



昭和初期 口田村史より引用
③弘住神社の紅葉

望野に白帆眺めて写生かな



昭和初期 口田村史より引用
④阿武山遠景
⑦太田川の帰帆

石段も埋める銀杏の落葉かな



昭和初期 口田村史より引用
⑧教達寺の山門

巖然たる二ツヶ城や秋の月



昭和初期 口田村史より引用
⑨二ツヶ城の秋月

白蓮や鳥越池の跳ねる鯉



昭和初期 口田村史より引用
⑩鳥越池の蓮花
中央が鳥越池
手前は鳥越池
奥は口田小学校

『口田村十勝が詠まれた場所 をたずねてみよう』

口田村十勝は、「口田村史」の中の芸術史の項に記載されています。十勝は、口田村の川内龍月（本名は貞雄）氏が昭和の初め、村内の自然を観察して回り勝景・勝地を10か所選定し、その景観を詩歌に詠んだものです。

十勝が詠まれた場所をたずねながら、昭和初期の時代や十勝の世界に思いをさせて見ませんか。歴史マップ編集スタッフが、十勝の詩歌が詠まれた場所を想定してみました。

昭和初期の口田村 （小田・矢口）のようす

「口田村史」によると、昭和初期の口田村は、世帯401戸、人口1,788人で、3世代同居の家族が多く住んでいました。口田尋常高等小学校（現在の口田小学校）の児童数は330人、教職員は9人の規模でした。校舎そばには農家にとって大事な用水池であった鳥越池がありましたが、今はその姿を見ることはできません。

村民のほとんどは農業従事者で、農家の数は346戸でした。農家では、主要産品として広島菜とジャガイモに力をいれていました。広島菜漬は京阪神方面にまで出荷され、口田村の広島菜漬として有名になりました。

昭和6年（1931年）にはじめて電話がつきましたがはじめは郵便局と役場にあるだけでした。県道は小石のちらばった道路で、自転車や馬車が主役でした。小田の奥には農家が数戸あっただけで周囲は田んぼでした。また、矢口から岩上へは寂しくて険しい夜山峠越えの県道を行かなければなりません。

交通機関では、太田川を渡るためには橋がありませんでしたので、口田からは渡し舟を利用していました。渡し場は、高瀬（矢口）・弘住（小田）・東野（小田）の3か所がありましたが、昭和29年（1954年）に安佐大橋が完成し、渡し舟は廃止されました。大正4年（1915年）に開通した芸備鉄道（現在のJR芸備線）の戸坂駅と矢口駅の間に、昭和4年（1929年）ガソリン自動車専用的小田停車場がつくられました。終戦のころに廃止され、今はありません。

今日、団地の造成とともに遺跡・古墳が多く発見されていますが、当時は平野古墳、湯釜古墳がわかっていただけでした。

「口田村史」について

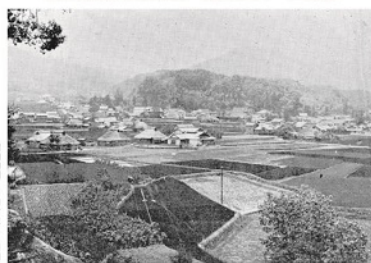
「口田村史」は、川内龍月氏が地元有志の援助のもとに十数年の歳月を費やして、昭和8年（1933年）に完成させた口田村の地理と歴史をまとめた貴重な郷土誌です。

昭和初期の口田村の風景

イ. 小田地区
「桜井付近（小田鉄橋付近）より見る小田全景」



ロ. 矢口地区
「月野瀬神社付近より見る矢口全景」



口田村地図に記載されている
今は見ることが
できなくなった
建物・場所



E. 郵便局
明治41年新築の郵便局
昭和初期 口田村史より引用



A. 夜山の峠
矢口側峠入口付近
昭和55年丸山光幸氏撮影提供



F. はすが池
現在は消滅しているが、写真のような地があった（イメージ写真）



B. 高瀬（矢口）の渡し場
矢口対岸の川内の舟着場
昭和29年 丸山光幸氏撮影提供



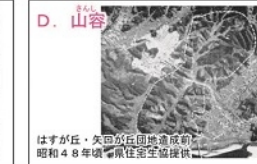
G. 小田停車場跡
昭和4年に設置された小田停車場跡付近
平成14年撮影



C. 県道
矢口の県道と家並み
昭和28年 上土井正氏撮影提供



H. 役場
右の建物が役場、左の建物は口田尋常小学校
昭和初期 口田村史より引用



D. 山容
はすが丘・矢口が右側地蔵堂前
昭和48年頃 弘住氏撮影提供



I. 田園
小田村周辺の田
大正9年 口田村史より引用